



平成23年5月16日

## 卓話 『六本木ヒルズ 防災への取り組み』

森ビル株式会社 専務取締役

森 浩生 様

皆さまこんにちは。今日のお話は六本木ヒルズの防災の取り組みです。「逃げ出す街から逃げ込める街へ」という森ビルの街づくりをご紹介します。

まず東日本大震災への対応です。マグニチュード9.0という日本の観測史上最大の地震で、岩手、宮城は震度7、東京は震度5強でした。私も震度5強が23区内で起きた場合、自動的に震災対策組織体制に移行することを決めており、地震発生から約20分後の3時08分、森ビル本社に震災対策本部を設置し、1,400人の社員全員が震災体制に移行しました。

ポイントの一つは社宅班。港区の、歩いて30分圏内にある森ビルの社宅に住む170名の社員が、まず決められたビルに行って、被害状況を独自開発の災害時情報収集システムを使って報告するのが第一段階。休日や深夜でも対応可能ですが、今回は業務時間中でしたので、ほとんど全員が森タワーから自分の担当ビルに行きました。これが初動対応。次に復旧班という、応急措置を行う役割の社員270名が、社宅班の情報を受けて各ビルに散っていくのですが、今回は大きな被害はなく待機状態でした。六本木ヒルズの各ビルは震度7でも耐えられる設定にしていたのを、阪神大震災をうけてその1.5倍まで耐震性を高めました。また虎ノ門界隈には我々がナンバービルと呼ぶ昭和30年代の古いビルがありますが、昭和56年の耐震基準改正を機に、各テナントに耐震補強のための一時的移転という協力をいただいて平成21年までに終了しており、その結果、そういうビルも全く痛むことはありませんでした。停電対策として六本木ヒルズはガスタービ

ンによる合計38,000キロワットの自家発電装置を持っておりまして、ガスが止まったときのために東電のバックアップがあり、さらに電力も切れた場合72時間賄えるオイルタンクも持っております。今回、正にこの設備のおかげで停電せずに済み、余った分を東電に供給できたわけです。またこの廃熱を利用して空調エネルギーに活用するコジェネレーションシステムを採用しており、環境面で大きな省エネに繋がっております。

ソフト面では帰宅困難者対応が一番の問題でした。六本木ヒルズは10万食、森ビル全体では20万食の備蓄食の用意があります。毛布、医薬品も災害用の井戸もあります。当日、地下鉄もJRも止まった中で港区から帰宅困難者を200人受け入れてくれないかという話が来て、毛布と食料を用意するという対応をしております。またお子様連れの方に休憩室を用意したり、グランドハイアットホテルに泊まっていたりという事で、ソフト的にもいい対応ができたと思っております。

東日本大震災では対策をちゃんとしておくことが本当に大事だと思えました。森ビルが考える3つの基本理念「安全・安心」「環境とみどり」「文化・芸術」を絶えず追求していくことが、我々の日本再生に向けてできる最大の社会貢献だと考えております。

ご静聴ありがとうございました。

